

R 元年 11 月 9 日(土)

テーマ : 周手術期に必要な継続看護

講師 : 坪井 有加里 先生 和歌山県立医科大学附属病院  
手術室看護認定看護師

場所 : ビッグ U

参加者 : 45 名

術前から術後までの周手術期を通して、患者が受ける侵襲と必要な援助について講義された。

手術室看護師、病棟看護師が受講されていた。

術前・術中・術後の看護について、丁寧に教えていただいた。  
スライドが詳細で分かりやすかった。

#### 術前看護

患者が、手術を受けることの意味を理解した上で意思決定できるよう支援する。身体的・心理的・社会的な準備を整えて、主体的に手術に臨むことができるように支援する

#### 術中看護

術後の早期回復を目指し、手術による侵襲を最小限にする

#### 術後看護

患者が安全かつ安寧に過ごせるよう支援する。自らの健康回復のために、主体的に治療に参加し、日常性を回復するために生活の営みを再構築するように支援する



術前の事例についてグループワーク



「手術は治療であるとともに侵襲です  
手術を受ける患者さんが、術前、術中、術後の体験する変化(最悪の事態を含めて)を予測し、ケアをおこなうことが大切です」とまとめられた。

R 元年 11 月 11 日(月)

テーマ : 見る・聴く・触るを極める！  
フィジカルアセスメントレベルⅠ～Ⅲ

講師 : 山内豊明先生 放送大学大学院  
教授

場所 : 看護研修センター

参加者 : 108 名

アセスメントの進め方から急変時のアセスメント、呼吸音・腹部のフィジカルアセスメントなどわかりやすく、身近な自分たちの生活に例えて説明してくれる。

心電図モニターをつけている人の波形が「フラット」に。  
皆さんは「また・・・」と思って、観察に行かないなんてことはない  
ですよ。

いろいろな事例を挙げて「あなたならどうしますか？」と考えた研修  
だった。



【講義風景】

呼吸音の聴診・腹部の聴診・打診など観察方法を先生自ら  
作成した動画で実際の方法を学習。

ナレーションもあり、とてもわかりやすかった。

先生が新幹線に乗車中、気分が悪くなった人の観察をして  
推論し、病院へ同行したエピソードなどの話もしてくれた。

新幹線を止めてでも病院へ行かなければ危ない状況を判断  
する観察力と推論のコツなどの話には吸い込まれていった。

R 元年 11 月 12 日(火)

テーマ：人工呼吸療法を受ける患者の基本的な看護援助

講師：泉仁美先生 和歌山県立医科大学附属病院  
集中ケア認定看護師

場所：看護研修センター

参加者：89名

人工呼吸器からの離脱について中心に講義してくれる。

人工呼吸器をつけている人にはどんな人がいますか？

座席の前後左右の4人で話し合い。

NPPVを装着している患者の家族の受入れ困難な事例などを紹介してくれる。

呼吸音など動画を使って講義してくれたので、わかりやすかった。



【講義の様子】

講義の最後に、先生がラウンドしながらそれぞれの感想を聞いていく。

「口腔ケアについても説明があり、実践にすぐに活かせる。」

「人工呼吸器を装着しながら車いすで散歩しています」との発表に先生も喜ばれていた。

発表の中には質問もあり、受講生全員が回答を共有できた。



R元年 11月 16日(土)

テーマ : 誰が見てもわかる看護記録

講師 : 岩渕泰子先生 社会福祉法人聖母会 聖母病院  
副院長

場所 : 看護研修センター

参加者 : 67名

看護記録の意義から記録の様式・記録の法的な位置づけ・具体的な書き方などをわかりやすく説明してくれた。



【講義の様子】

スクリーンに映っているのは、聖母病院。  
東京都選定歴史的建造物ということで、すごく趣のある建物です。

この記録何が問題でしょう？  
前後左右の人と記録の事例を  
話合い。  
いくつある？どこが？何が？  
などを検討する。  
検討した内容を発表し、答え  
合わせ。  
わかりやすい解説であった。  
今ごろ受講された方は、良い  
記録を書かれていることでは  
う



R 元年 11 月 19 日(火)

テーマ : 人に伝わる分かりやすい文章の書き方  
講師 : 平松正昭先生 和歌山信愛女子短期大学  
非常勤講師  
場所 : 看護研修センター  
参加者 : 79 名

私たち看護職が苦手とする文章の書き方を、100 文字程度の文章から 500 文字の文章まで、どこが「人に伝わらない原因」かを考えて行く。最終的に 600 文字以内で課題の小論文を実際に書くという講義であった。

「論理的に文章を書く」ということを初めて教えてもらった。講師も今の学校教育で文章の書き方を教えることをしていないと言われていた。



募集定員をはるかに上回る 79 名  
が受講

ほとんどが、演習でしたが、皆さん必死に「どこが悪いのか」「どうすればわかりやすくなるのか」考えていた。

演習では・・・

- ① 悪い例文を読む
- ② 個人ワークで各自が考える
- ③ その後模範文章を提示 ② を何回も繰り返す

少しずつレベルを上げて、最終は日本医科大学医学部の入試問題の小論文を書くところまで実践した。

最後に 600 文字の小論文を書くことに挑戦。

「皆さんの前で最初に発表するのは嫌だろうから」と協力員の教育委員自ら考えた小論文を発表！

自ら発表する勇気とわかりやすい文章に拍手喝采だった。





R 元年 11 月 23 日(土)

テーマ：身体抑制のない看護

講師：小池京子先生 医療法人大誠会 内田病院  
認知症看護認定看護師

ファシリ

テーター：稲垣伊津穂先生 名手病院 看護部長

場所：看護研修センター

参加者：130名

「身体抑制を全くしない」どのように接して、どのような経過を経たのか。とても興味深かった。

「本当にできるの？」から「こうすればできる」へと  
意識改革を行い、身体拘束ゼロを実現！  
ここに来るまで、10年がかかったそうです。



バイタリティのある講師とファシリテーター

午後からはグループワーク

事例を通して、倫理について・拘束することに対して周囲の関係者が  
どんな意見を持っているのか・関係者はどうすればいいのかを考えた



グループワークの様子